

参考資料

●相対的貧困率とは

子どもの貧困率（厚生労働省発表 2012 年 16.3%）のことであり、経済協力開発機構（OECD）が定めています。

全国民の手取り年収を少ない方から並べると 2012 年は 244 万円が真ん中となり、この半分の 122 万円に届かない人の割合が相対的貧困率となります。

▽年収・月収にすると

1 人暮らしなら年収 122 万円、月収 10 万円程度となります。

また、光熱水費等の世帯人員共通の生活コストは、世帯人員が多くなるにつれて割安になる傾向があり、家族が増えても単純に増えないので、2 人暮らし以上は、下記のとおり示されています。

2 人なら年収 173 万円、月収 14 万円程度

3 人なら年収 212 万円、月収 17 万円程度

4 人なら年収 244 万円、月収 20 万円程度

5 人なら年収 273 万円、月収 22 万円程度

6 人なら年収 299 万円、月収 25 万円程度

7 人なら年収 323 万円、月収 27 万円程度。

※貯金などは考慮されていません。

▽判断基準

OECD では、収入だけの基準で算出されています。

▽その他

政府の貧困対策上は、他の観点も考慮されており、「子どもの貧困対策に関する大綱」では、「子どもの貧困に関する指標（資料 2-1）」を定め、貧困をより広く捉えて対策に取り組むこととされており。

●参考

絶対的貧困＝生きるのに必要なものが足りない状態をいう。